

## 故上野俊樹教授追悼号の刊行にさいして

経済学部長 山 田 彌

上野俊樹先生は1999年5月、膵臓癌のためお亡くなりになりました。享年56才、余りにも突然の逝去でした。その早すぎる死を悼むとともに、先生の多大のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、ここにささやかながら追悼記念論文集を編集・刊行することになりました。

先生は1968年に早稲田大学第一政経学部を卒業、1973年には大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程を終了され、この年の4月に経済学部助教授として本学に着任されました。以来26年余にわたって先生は、立命館大学及び経済学部の発展のために尽力してこられました。

先生は経済理論学会、経済学史学会などに所属し、精力的に研究に取り組みられました。1982年に初めての著書『経済学とイデオロギー』を世に問われたのちも、87年には『現代の国家独占資本主義』を編著者として、また89年には『ネオマルクス主義—批判と研究—』を共著者として出版され、さらに91年の著書『アルチュセールとブーランサス』で立命館大学から経済学博士の学位を取得されました。その後も先生は、経済的土台と上部構造の相互作用に関する一般理論をつくりあげるといふ壮大な研究目標を自らに課しつつ、それを実現するための当面の課題として、第1には国家論つまり国家と経済的土台の相互作用にかんする研究、第2には社会主義体制の崩壊に伴って史的唯物論に対して新たな問題が提起されているという認識のもとで、ポーランドを分析素材とした史的唯物論の創造的展開、第3には先生の担当科目である経済学史について、これまでに執筆された研究論文をベースにした「経済学史」の出版、という3つの仕事に全力をあげてとりこんでおられました。いずれも近い将来立派な著書として結実するはずの研究が無情にも道半ばにして絶たれてしまいました。先生にとってどれほど無念であったかを思うと本当に残念でなりません。

先生はまた教育に情熱と時間とエネルギーを惜しみなく注がれました。学生たちからは父のように敬われ、兄のように慕われてきました。上野ゼミは終始学部きっての人気ゼミであり、このゼミで学んだことを誇りにして社会の第一線で活躍されている多数の卒業生がおられます。また、先生のゼミや先生が指導されたサークルからは50名を超える多数の研究者が育っています。先生が播かれた種から大きな研究者の林や森が形作られつつあるわけで、志し半ばで絶たれた先生の研究課題がこれらの研究者によっていずれかの形で受け継がれ、いずれは立派な花をさかせることになるものと確信しております。

先生が終始変わらず強い関心を持っておられた問題の一つは、今日の日本社会における青年の成長についてでした。成長していく上でさまざまな困難のなかにおかれている現代の青年に対して、どのような援助が必要であり可能なかを絶えず考えておられました。先生が編著者として出版された1985年の『大学生講座』はその一つの成果であり、また93年から2年間引き受けて大

きな成果をあげられた学生部長の仕事は、先生にとってこの意味でまさに自らの研究課題の実践で有ったかと思われまます。

先生はまた、経済学部で教学改革の取り組みにも終始積極的にかかわってこられました。1988年と89年にはそれぞれ学部主事と調査委員長として学部教学の充実・発展にむけて教授会の議論をリードされたことはいうまでも有りませんが、それ以外のときも終始教授会でのきわめて活発な論客のひとりでした。先生はユニークでかつ重要な論点を教授会に対して絶えず提起してくれた貴重な同僚であり、この点でも経済学部教授会にとって先生を失うことは大きな損失であったと思わざるを得ません。

先生には1998年度に経済学部創立50周年記念事業の実行委員会事務局長に就任していただき、記念論文集や学部50年史・写真集の編集、記念式典や記念シンポジウムの開催、募金活動など記念事業全体の采配を振るっていただきました。思えばこの間、すでに先生は体調に異変を感じはじめられておられたわけであり、事務局長の多忙な業務が先生の体にとって少なからぬ負担となったのではないかと悔やまれます。先生はまた、学部調査委員の一員として98年のBKC新展開に向けた学部教学改革案の検討において指導的な大きな役割を果たされました。分離融合をめざす新しいキャンパスづくり、新しい経済学部づくりの3年目を迎えようとする今、学部教学の一層の質的充実にもむけてともに歩んでいくはずであった先生を突然失うことになりました。

だがいつまでも嘆き悲しんでいるわけには行きません。わが経済学部がおかれている状況はなお依然として決して容易なものではありません。私ども経済学部の教員一同は、先生が情熱を注いでこられた経済学部の教育・研究のいっそうの発展と充実にむけて尽力する覚悟です。

ここに先生の26年間に渡る経済学部でのご活躍と率直で暖かいお人柄をしのび、先生のご冥福を心から祈念して、追悼記念論文集の挨拶の言葉とさせていただきます。

1999年12月



上野 俊樹教授 遺影